

「水」美容の提案では カウンセリングが重要

「水」は全ての美容の基本だが、ここにきて改めて注目が集まっている。オーガニック&ナチュラルコスメがブームから定番となった今、「究極のナチュラル素材」である水は、最後の未開拓分野といえるかもしれない。ここでは、水関連の美容素材として、定番となった「炭酸水」の他、これからさらに話題となるであろう「ケイ素水」、今さまざまな側面から話題となっている「水素水」など、水美容の可能性を考える。

学者や研究者の間には、「空気と水には謙虚な姿勢で臨む」という言葉がある。空気や水は身近すぎて分かったつもりになっているが、実際には解き明かされていない要素が多いため、研究においては広く他人の意見に耳を傾ける必要がある、という意味だ。例えば「〇〇地方の水を飲んだら腰痛が治った」といった話はよく聞かすが、それは水素、マグネシウム、ミネラルなどの成分が絶妙なバランスで存在しているためであり、そのバランスがなぜその症状に良いか、ということはまだに解明されていない。実際、ここで取り上げるケイ素も水素も、

水や体内に多く存在する成分ではあるが、その働きなどの多くは解明されていない。中でも水素は、美容業界で「活性酸素を除去する効果がある」「抗炎症作用がある」といわれ、多くの製品が開発されているが、今「本当に効果があるのか」といった議論が起きている。多くの学者・研究者が、水素の人体への好影響を公表している中で、こうした議論が起きている背景には、右ページで山野井昇・未来医学財団理事長が指摘しているように、水素そのものの研究よりもマーケティングが先行してしまったためだろう。また、現在は(エネルギー分野が中心ではあるが)国としても水素関連のプロジェクトを推進している。

トを推進している、その指揮をとる福田峰之・衆議院議員は美容業界にも注目し、以下のような提言を行っている。「美容分野では、水素に関する学術的なエビデンスも増え、水素関連製品が話題になっている。しかし、自社の利益を追求するあまり、企業間で「足のひっぱりあい」をしている様子も見受けられる。エネルギー業界の企業は、企業同士で協力し、「まずは水素市場を作ろう」という共通意識でやってきたため、ここまで来ることができた。美容分野でも、自社の利益追求を一旦おさえ、そうした意識で取り組めば、水素市場はもっと発展する可能性を秘めている」。

そうした不確定な要素もあるため、同じく右ページで小売店やサロンのマーケティングを手掛ける松下玲子・DSプロモーション代表が指摘しているように、水(水素)関連の製品やサービスを提案する際は、カウンセリングが重要。「効果や、他のお客が体験した感想などを正しく伝え、納得したうえでサービスを提供していくことが、トラブルを防ぐ最良の方法」だという。ヘアサロンでは、ヘッドスパの差別化のために水素関連製品の導入を検討しているオーナーが少なくない。効果的な差別化メニューになるかどうか、カウンセリング力にかかっているようだ。

炭酸水、海洋深層水、ケイ素水……など、話題の「水」アイテムを紹介

炭酸水

ヘアサロンでの業務用製品から家庭用製品へと移行

炭酸は、ヘアサロンで使用する水を炭酸泉に替えると、ヘアカラー時にアルカリを除去でき、ヘッドスパのときに頭皮の血行を促進できる、として話題になった。最近では、家庭のシャワーヘッドを取り換えることで、手軽に炭酸を体験できる「重炭酸スパークリングシャワー」などが登場。化粧品にも応用され、炭酸入りのマスク、クレンジングなども登場。高濃度マイクロ炭酸の泡で潤いを与える「ソフィーナ IP 美活パワームス」は、弊紙6月23-30日号で「百貨店バイヤーが選ぶベストコスメ」にも選出。



炭酸の役割を入れて使用することで炭酸泉を体験できる。ホットアルパム炭酸泉タブレット「炭酸スパークリングシャワー」(左)。花王のソフィーナ IP 美活パワームス

海洋深層水

自然のミネラルバランスで
インナービューティでも人気

海洋深層水とは、光の届かない水深200mより深い層の海水のことで、栄養素が、豊富なことが特徴だ。化粧品に活用されたのは比較的早く、1998年に「シュウ ユエムラ」が発売した化粧水「ディブシーウォーター」がバイオニア的存在。現在はインナービューティの観点から再注目され、海洋深層水を100%使用した「天海の水」などが売り上げを伸ばしている他、海洋深層水を満たしたプールでくつろぎの時間を過ごせる「ディブシーセラピー」も人気。



1.星野リゾート ウトコ オーベルジュ&スパの「ディブシーセラピー」2.海洋深層水を100%使用した、薬化成品の「天海の水」3.1998年の発売以来ロングセラー、シュウ ユエムラの「ディブシーウォーター」

プラチナ水

抗酸化力が持続する「プラチナコロイド」が人気

プラチナ(白金)の微粒子(コロイド)を「プラチナコロイド」といい、強力な還元力(酸化に抵抗する力)を持つことが日本薬学会で発表されている。そのプラチナコロイドと水からできた清涼飲料水が「sai(サイ)だ。」「sai」の還元力は、肌に触れている間中ずっと効果を発揮し続ける点特徴で、体内には吸収されず、自然に体外に排出されるまで継続する。今年2月には、「sai」を使用したスキンケア「プレミアムプリアノ」シリーズを発売し、クチコミを中心に売り上げを伸ばしている。



プラチナコロイドをベースに、ビタミンを含んだ天然成分であるローゼヒドロキシルを配合した、プラチナプロプレミアムプリアノントローション(左)。高麗(右)。

ケイ素水

体内に取り入れた美容成分をしっかりと保持するための土台

現在、美容家などがライフスタイルに取り入れ始めているのがケイ素だ。「ケイ素は、地球上では酸素に次いで多い元素。体内にも多く存在し、骨の約3割はケイ素だといわれている。役割は、家でいえば「すじかい」のようなもので、組織間の結合を担うコラーゲンなどの結びつきを強める役割を果たしている。体内では作り出すことができなため、加齢とともに減少することが確認されている」と、山野井昇・未来医学財団理事長(P.7参照)は話す。現在は、ケイ素入りの飲料などが販売されていて、今後化粧品などに応用されるとブームが来ることも予想される。

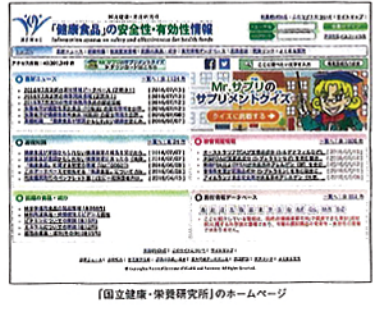


ケイ素が最も多く含まれる物質(ミネラル)を、特許技術で体内に吸収しやすい状態にした高濃度清涼飲料水、エッセンス「ケイ素コロイド」(左)。アルファインド「W女王シリカ天然水」

水素 有効性について信頼できるデータがない!?

「水」に関する美容の中で、今最も注目されているのが「水素」だろう。インターネットを中心として、さまざまな議論がなされている。美容業界として気になるのは、「水素入り飲料などは、水素がすぐに抜けてしまうのではない」「水素を体内にとり入れることで、本当に良い効果があるのか」という2つの議論だろう。前者に関しては、水素が抜けやすいことは確か。しかし、アルミ缶などに入れることでかなりの割合で防ぐことができる、というのが「識者の見解だ。問題はフタを開けてからだが、今のところ「早目に飲む(使う)」というのが最善策のようだ。また、最近は携帯用の水素発生器なども多く販売されているので、「抜

けたらまた作る」という作業で、ある程度は解決できそうだ。問題は後者の議論。今年6月に「国立健康・栄養研究所」のホームページで、水素水について「ヒトでの有効性について信頼できる十分なデータが現時点で」と発表され議論に拍車をかけた。しかし、このような発表をした理由は、「現時点における水素水のヒトにおける有効性や安全性の検討は、ほとんどが疾病を有する患者を対象に実施された予備的研究であるため、健康な人が水素を摂取し、それが健康の維持・美容に効果があるという検証データが少なくないから。つまり「まだわからない」ということだ。そこで、水素の効果と議論の真相について、識者に聞いてみた。



PROFESSOR & DOCTOR 研究者・医師に水素の真相を聞いた

水素は活性酸素に電子を与える役割を担う

山野井昇/未来医学財団 理事長

「水」は化学記号でH₂Oと書く。それだけ見ると水素[H]と酸素[O]だけでできているように見えるが、もちろんそうではなく、実際は微量かつ多様なミネラル物質が含まれている。今は水素だけが大きくピックアップされて話題になっているが、本当は「水」全体の研究がもっと進められるべきだと考えている」と前置きしたうえで、水素について語ってくれた。



PROFILE: 東京大学大学院医学系研究科助手を経て、未来医学財団を設立。特に空気や水の最新科学などに関心を持つ。イオン研究の第一人者としても知られ、現在、日本マイナスイオン応用学会会長や新技術未来戦略会議議長などを務める。

「水素とは、体の元素成分の約10%を占める元素で、酸素、炭素に続いて3番目に多い。「水素は活性酸素を除去する」といわれているが、それは水素が持つ電子によるものだという。「分かりやすく説明すると、活性酸素とは、酸素原子の周りがある電子が1つ欠けている状態のもの。欠けて不安定になったため、周囲から電子を奪おうと悪さをするのが活性酸素だ。体内に入った水素は、自分の電子を活性酸素に与える。水素は宇宙で最も小さな元素であるため、他の抗酸化物質ではサイズの問題で入り込めないところまで入り、活性酸素にアプ

医療では“細胞レベルの健康”を実現するものとして研究が進む

内藤眞禎生/医師・医学博士「ブルークリニック青山」院長

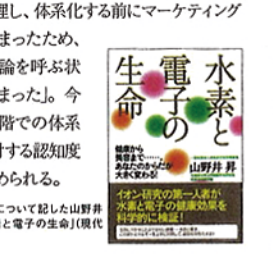


PROFILE: メルボルン大学医学部研究主任、総合病院内科部長を経て、1999年から清方医学を研究。2005年には日本東洋医学会認定清方専門医も取得。10年、総合医、酵素栄養学などの長年の研究の成果を生かして「ブルークリニック青山」を開設。

「クリニックでは、水素は最高の抗酸化物質ととらえている。活性酸素にはいくつ種類があるが、その中で最も悪影響といわれているのがヒドロキシルラジカル。それを選択的に除去できるのが水素の効果だと考えられている。ヒドロキシルラジカルは酸化力がとても強く、例えばミトコンドリアを攻撃して代謝を低下させて、糖尿病や高脂血症の原因にもなりえる」と内藤眞禎生・医師。また、水素研究は日々新たな考え方が発表され、進化している分野でもある。例えば新たな研究結果として、体に最も水素を取り入れやすい方法として「水素・一酸化窒素」の混合ガスを吸うのが良いという考え方もあるという。「私は、水素と相乗効果を得られるものについての研究を開始している。その1つが酵素で、酵素と水素を摂取することで代謝酵素を活性化させるなどの理論を、臨床結果なども交えながら研究を重ねている。このまま研究が進むと、実現されるであろう価値は「細胞レベルの健康」だ。「どんなに良い美容素材を取り入れても、細胞が元気でなければ効果は期待できない。細胞レベルで活性酸素を除去できる水素を、常に取り入れる「水素生活」は、美容・健康レベルをワンランクアップさせる可能性を秘めている」。

したことを整理し、体系化する前にマーケティングが先行してしまったため、さまざまな議論を呼ぶ状況を作ってしまった。今後は、早い段階での体系化と、水素に対する認知度のアップが求められる。

水素と電子の関係について記した山野井理事長の著書「水素と電子の生命」(現代書林)



MARKET 市場での水素関連製品のニーズは?

「水素」に関しては、さまざまな議論が起こっているが、市場ニーズ、消費者動向はどのようになっているのだろうか。バラエティショップ、ドラッグストア、サロン、クリニックなどの消費者動向に詳しい松下玲子・DSプロモーション代表に聞いた。

「飲料は別にして、サプリメント、水素発生器、入浴剤などの水素関連製品の消費は、現在は顧客に直接説明ができるエステサロンで取り扱う場合が多く、昨今は水素の吸引をメインメニューとする「サロン」なども増えてきた。水素に関してはさまざまな議論があるが、美容意識の高い女性性は、そうした情報は認知しているものの、水素の効果に期待して飲料を購入している人が多い。しかし「水素が時間の経過とともに抜けてしまう」という情報は

浸透していて、掘りにくい工夫がなされたものを求めている傾向にある。そうした状況であるからこそ、水素関連の製品やサービスを提案する際は、カウンセリングが重要だと指摘する。「効果に関する疑問が話題になっているからこそ、正しい情報を伝えることが重要。効果や、他のお客さまが体験した感想などをカウンセリングで話し、納得したうえでサービスを提供していくことが、トラブルを防ぐ最良の方法だと思う」。

また、アイテム的には入浴剤に注目しているという。「入浴剤に関しては消化吸収よりも皮膚を通じて体内に入る経皮吸収の方が吸収率が良い」と訴求する企業や情報が増えた。そこに消費者も反応している様子で、ニーズは高まりつつある。現在はやや過当競争さみの入浴剤市場だが、「水素」という差別化できるキーワードを得たことで、水素をうった入浴剤は今後増えていくのではないだろうか」。

松下玲子/DSプロモーション 代表

PROFILE: 美容専門のPR・マーケティング事業を運営。美容マーケティング、広報代行、医療機関関係、インスタグラムマップロガー向け研修会、SNS拡散のPR事業を展開。自身はコンサルティング、講演セミナー等も活動。

山野井昇・未来医学財団理事長は、マイナスイオンや水素といった現代科学だけでなく、中国の古代思想にも精通「マイナスイオンや水素といった現代科学だけでなく、中国の古代思想にも精通」